

関西学院大学 ライティングセンター

Vol.
03
2022.10
NEWS
LETTER



ニューズトピックス

- 大学におけるライティング教育の現状
- 初年次教育の一環としての本学ライティングセンター提供科目
 - ー科目「スタディスキルセミナー（レポート執筆の基礎）」の概要
 - ー学部生の文章執筆に対する不安意識の変化
 - ー学部生の文章に見られる変化
- 教員コラム（ライティングセンター准教授 福山佑樹先生）
 - ーライティングセンターについてのよくある誤解
- ライティングセンター利用案内



大学におけるライティング教育の現状

大学生の文章表現力の育成に向けた教育体制の整備が求められるようになり、日本においてもライティング関連科目を開講する大学が増加しています。なかでも、初年次教育の実施状況については、678大学（調査協力機関742大学のうち91%を占める）が「レポート・論文の書き方等文章作法関連」の科目を提供しています（※1）。

また、本センター教員らが107大学を対象にして行った調査（※2）からは、ライティング科目の実施形態として、対面による指導（91.3%）だけでなく、フルオンデマンド型授業（5.8%）やハイブリット型授業（2.9%）が取り入れられていることが明らかになりました。本学においても、今年度は後述するライティング科目でハイブリット型授業を取り入れ、学生の学習状況に柔軟に対応できるような形態での科目提供を行ってきました。

これらの正課教育に加えて、正課外でも個別にライティングの支援を提供するために、各大学には「ライティングセンター」（名称は大学によって異なる場合がある）が設置され、レポートや卒業論文の執筆を支援する体制が整えられています。本学ライティングセンターは、学部1～4年生を対象としたライティングの支援を行っていますが、国内の大学の中には大学院生や大学教員なども利用できるような体制作りを進めているケースもあります。

昨今は大学教育において、正課教育・正課外教育での包括的なライティング支援を通して学部生の文章表現力を育成することの重要性が高まってきていることが見てとれます。

※1：文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室（2021）「令和元年度の大学における教育内容等の改革状況について（概要）」
(https://www.mext.go.jp/content/20211104_mxt_daigakuc03-000018152_1.pdf)（情報取得日 2022年8月24日）

※2：時任隼平・三井規裕・福山佑樹・西口啓太（2022）「初年次生のアカデミックライティングに関する実態調査」『関西学院大学高等教育研究』12号, pp.31-45.

初年次教育の一環としての 本学ライティングセンター提供科目

●科目「スタディスキルセミナー（レポート執筆の基礎）」の概要●

大学におけるライティング教育の重要性が高まる中で、本学ライティングセンターにおいても初年次教育の一環としてライティング科目を提供してきました。2022年度春学期は、「スタディスキルセミナー（レポート執筆の基礎）」を合計18クラス（このうち、3クラスは全授業回（14回）のうち6回を非同期で受講するハイブリット型授業）開講しました。

本科目では、論文・書籍などの信頼性の高いデータを根拠として主張を述べる、論証型のタイプの文章を執筆します。受講生は、論証型レポートを書くために「表現（接続表現・一文一義など）」、「ルール（引用方法および参考文献の書き方など）」、「構成（序論／本論／結論の構成・パラグラフライティングなど）」を具体的な文章事例とともに理解します。

授業で解説する内容（動画教材）の一部

論理的な文章を構成する要素		アカデミックな文章を書く際の注意点(基礎)	
3つの要素が入った文をつくる		アカデミックな文章は、 修辞法は使わない	
主張	自分の考えていることを、自分自身と他者に向けて表明したもの（＝根拠と論拠から導き出された著者の見解）	修辞法	修正例
根拠	【主張】を裏づける、具体的かつ客観的な証拠やデータを述べたもの（＝論文や書籍からの引用等）	専門家は「●●」と主張。 ↑ 体言止めは使わない	専門家は「●●」と主張した。
論拠	自分自身が【根拠】をどのように解釈・判断・評価したのかを説明したもの（＝書き手なりの視点から根拠を解説することによって、主張と根拠がどのようにつながるかを理由づける）	投票に行くことは重要である。 将来のためにも。 ↑ 余韻を残すような倒置法も使わない	将来のためにも、投票に行くことは重要である。

知識の習得だけでなく、授業内では徐々に字数を増やしながら文章を執筆していく実践的な活動も取り入れています。まずは特定のテーマについて、500字程度の「本論」に相当するパラグラフを1つ執筆します。この段階では、受講生は適切な引用表現を用いながら主張・根拠・論拠が含まれる文章を執筆することを目標としています。500字の執筆課題に合格した後は、別のテーマについて、800字程度で「序論」・「本論」・「結論」の3部構成の文章を執筆します。800字の執筆課題では、序論で示した問題提起に対して、本論で説得力のある論証を行えているか、結論では内容を適切にまとめ直した上で、今後の課題を記載できているかなど、より内容全体にまとまりや一貫性を持たせることが必要になります。各受講生は、学生同士での相互コメントや教員からのフィードバックの内容をもとに、自らの文章の推敲を行います。

500字と800字でのライティング以外にも、本科目では、学期中盤に1200字程度のレポート、学期末に2500字程度のレポートを執筆するよう授業を設計しています。段階的に字数を増やしながら執筆を繰り返す過程を経て、受講生の執筆する文章は徐々に洗練されていくとともに、レポート執筆に対する意識にも大きな変化が見られることが確認されています。

●学部生の文章執筆に対する不安意識の変化●

レポートを書く際、学部生は様々な項目について不安意識を持っています。

本科目で実施した調査によると、第一回授業開始時点で、多くの学部生は、「根拠に基づいて主張を論じること」、「論拠を説明すること」、「適切な文章表現を用いること」などについて、大きな不安を感じていることが明らかになっています。この背景には、高校までに執筆する文章（作文・エッセイ・小論文など）とレポートの性質の違いや、大学の各授業で課されるレポートの教示内容の違いなどが関係していることが考えられます。こうした理由から、レポート執筆に対して、学部生は心理的なハードルを感じていると考えられます。

しかし、これらの不安意識は、他者からフィードバックをうけながら文章を推敲をしたり、批判的・建設的な視点で自他の文章に向き合ったりする過程において、徐々に払拭されていきます。最終の授業回で実施した不安意識に関する調査からは、書くことに対する不安の程度が軽減していることが明らかになりました。特に「パラグラフ（序論・本論・結論）の構成を意識した文章を書くこと」、「適切に引用すること」は「不安を感じない」と答える割合が顕著に増えています。

このように、半学期間という限られた時間内でもレポート執筆の経験を積むことで、書くことに対する不安感は徐々に軽減されていきます。本科目を受講した学生からは、「全体の構成を組み立ててからレポートを執筆するようになった」といった声が寄せられています。

●学部生の文章に見られる変化●

授業開始時の学部生の文章には、論証型レポートとして改善すべき点が多く含まれています。しかし、繰り返し推敲を行うことで、表現・ルール・構成ともに大幅な改善が見られます。ここでは、改善例の一部を紹介します。

【表現の改善事例】

【Before】

「本稿では具体策の一つとして食料自給率低下の一因として挙げられる食生活変化の面に注目して食料自給率低下の解決策を述べる。」

【After】

「本稿では、具体策の一つとして食料自給率低下の一因である食生活変化の面に注目し、食料自給率低下の解決策を述べる。」

【Before】では、文章の区切りがわかりづらく、「として」の表現の重なりもありましたが、
【After】では、句読点を用いて情報が整理され、表現の重なりもなくなっています。

【参考文献の記載方法の改善事例】

【Before】

スポーツ庁 (2017) 『平成 28 年度体力・運動能力調査の結果について』
報道発表 平成 28 年度体力・運動能力調査の結果について ([mext.go.jp](https://www.mext.go.jp)) (5月8日)

- 参照先がhttps...で記載できていない
- 閲覧日の西暦を書き忘れている

【After】

スポーツ庁(2017)「平成 28 年度体力・運動能力調査の結果について」(https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/houdou/29/10/_icsFiles/afidfile/2017/10/10/1396996-1.pdf)
2022 年 5 月 8 日閲覧

- URLが適切に記載できている
- 閲覧日の情報に漏れがない

【構成の改善事例】

【Before】

(序論 最終文) 「本レポートでは、日本における肥満者の増加の原因と考えられる「日本人の食事の変化」に注目する。」
(序論に続く本論 一文目) 「日本食は米食を中心とし、肥満になりにくいため、日本人は日本食中心の食生活を送るべきである。」

【After】

(序論 最終文) 「本レポートでは、日本における肥満者の増加の原因と考えられる「日本人の食事の変化」に注目する。」
(序論に続く本論 一文目) 「まず、日本人の肥満者の増加の原因として、日本人の日本食離れが挙げられる。」

【Before】では、パラグラフ間の内容のつながりがありませんでしたが、
【After】では、序論で示した内容に沿って、本論の一文目を書くことができています。

以上、改善例 3 つをご紹介しました。【Before】の文章にはレポートとして改善すべき点が多く含まれていますが、【After】の文章は表現・ルール・構成ともに大幅な改善が見られます。また、上記の例以外にも、個人の経験やWikipediaのような客観性の低い情報を用いていた文章から、論文・書籍の検索方法がわかり、客観性のある情報を根拠に用いる文章へと徐々に改善されていくことも確認されています。また、序論・本論・結論に何を書くべきか学生が把握できるようになり、結論のパラグラフにおいて、【Before】では全く観点の異なる内容を記載するような構成になっていた文章が、【After】では序論～本論で論じてきた内容をまとめ直すような構成へと修正される、といった変化も見られます。

このように、ライティングに関する基礎を体系的に学ぶ機会を初年次段階で提供することを通して、学部生の文章表現力の育成を目指しています。

教員コラム

ニュースレターでは、Vol.2以降、ライティング教育の現状や具体的な支援の方法について取り上げたコラムを掲載しています。今回は、ライティングセンター准教授の福山佑樹先生から「ライティングセンターについてのよくある誤解」をご紹介します。

本学ライティングセンターは対面／オンラインでの支援を開始して1年半が経ち、ありがたいことに既に1000人以上の学生にご利用頂いています。一方で、利用学生から聞く話などから、先生方にセンターの支援内容を適切に周知できていないのではないかと思います。そこで、今回のコラムでは、センターに対してよくある誤解2つを紹介します。

よくある誤解 1. ライティングセンターの定めた「書き方」を学生に押しつけられるのではないのか

もっともよく頂くご懸念は、センターを利用すると、「センターの定めた書き方」を学生に押しつけられるのではないのか、授業での指導法と違う書き方を「正しい」と学生に教えられてしまうのではないのかということです。ライティングセンターやその提供科目では、多くの分野に共通する一般的なレポートの書き方を教えていますが、レポートの書き方が各授業で指示された場合には、各授業における指示を優先するよう、必ず学生に伝えるようにしています。

よくある誤解 2. 専門的な内容について誤ったコメントをされてしまうのではないのか

他にも、専門的な内容についてもコメントされてしまうのではないのか、レポートのテーマでまだ学生を「悩ませておきたい」と思っているのに、センター側に勝手に内容やテーマの方向性を決められてしまうのではないのかというご懸念を頂くこともあります。センターでは、大学院生が教育指導員として勤務していますが、教育指導員の専門領域に近い文章が持ち込まれても、決して専門的な内容には踏み込まないようにルール化しています。また、レポートのテーマ選択などに関しても、利用学生から「引き出す」支援は行いますが、教育指導員が提案したり、決めたりするといったことは行いません。

このように、ライティングセンターでは、各先生方の専門や授業方針を尊重しながら、利用学生にとって有益な支援を行うよう心がけています。その他、「この授業の課題ではこういう支援はしてほしくない」、「課題の性質上、センターを利用してほしくない」といったご希望がありましたら、ライティングセンターまでご連絡いただけますと幸いです。どの授業での利用かを利用学生には予約時に尋ねていますので、できる限りご希望に添えるように対応いたします。

ライティングセンター利用案内

ライティングセンターでは、専属のスタッフ（助手）と、ライティング支援に関する研修を受けた本学大学院生が学部生の支援を行なっています。支援を必要とする学生がいましたら利用をご案内ください。また、各授業やゼミへの出張講座の実施も可能な範囲で対応しています。センター利用案内に関するご相談がございましたら、下記の連絡先までご連絡ください。

【支援対象者】本学 学部生（正規学生のみを対象とする）

【支援対象の文章】日本語による「授業のレポート・作文課題」、「卒業論文」、「研究計画書」

【実施形態】「対面」または「オンライン」のどちらかを選択可能

【相談時間】1回あたり45分

【利用方法】事前予約制（kwic / ライティングセンターweb / ライティングセンター公式LINEのいずれかから予約）

※相談時間に空きがあった場合は、予約なしの飛び込み利用も可能

【予約後の準備】当日までに「受付シート」を入力・提出する。希望する場合、事前の相談資料の送付も可能

支援前に学生が記入する受付シート（一部抜粋）

11. 課題名

回答を入力してください

14. 文章の段階 *

- まだアイデア段階
 文章の構成はできている
 執筆途中
 ほぼ完成

15. 今回のレポート課題で困っていること、見てもらいたいことを具体的に書いてください *

回答を入力してください

*センターで支援を受ける前に、利用学生は「授業の課題名」や「困っていること、見てもらいたいこと」を記入します。

*先生方から、「こういう点を見てもらうように」など ← 学生にお伝えいただけましたら、利用学生の受付シートの記入内容に沿って支援することが可能です。

*まとまった文章が執筆できていない段階でも利用可能です。テーマの方向性について、利用学生の意向を踏まえながら支援します。

お問い合わせ先

電話番号：0798-54-7459

所在地：西宮上ヶ原キャンパス大学図書館 地下1階

メールアドレス：writingcenter@kwansei.ac.jp

開室時間：平日10時～17時